

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	
授業科目名（講座名）	医療・保健・福祉をめぐる社会動向		
記入教員氏名			
講師氏名			
開講年度・学期		曜日・時限	
授業形態			
科目分類			
配当年次		時間数（講座の時間数）	13

【シラバス情報】

授業概要	我が国における医療・保健・福祉サービスの需要と供給について、基礎データから臨床に関する諸問題を解説し、医療的、福祉的、経済学的見地から、そのしくみを理解する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の医療・介護制度の動向について概要を説明できる ・地域ケアにおけるサービス供給の課題を具体的に挙げるができる ・社会福祉行政のあり方について自分の意見を述べるができる ・地域リハビリテーション分野における医療経済学的な視点を説明できる

授業内容（授業計画）	<ul style="list-style-type: none"> ・医療・介護制度の動向（e-learning 3時間） 講師：佐々木 嘉光（公益社団法人日本理学療法士協会） ・地域ケアにおけるサービス供給の課題（e-learning 2時間） 講師：備酒 伸彦（神戸学院大学 学長） ・社会福祉行政のあり方（e-learning 3時間） 講師：高森 聖人（一般社団法人虹色・大分県作業療法協会） ・医療経済学（e-learning 5時間） 講師：近藤 真司（大阪公立大学大学院 経済学研究科）
事前・事後学習の内容	

成績評価方法	成績は到達目標の達成度で評価します。 評価方法はレポートとし、到達目標の60%の習得度をもって合格の最低基準とします。
履修上の注意	計画的に視聴してください。
教科書	指定しない。
参考文献	
オフィスアワー	Moodleのフォーラムを活用してください。
教員への連絡方法（メールアドレス等）	「地域リハビリテーション学コース」事務局 gr-reha-cbr@omu.ac.jp
その他	

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	
授業科目名（講座名）	地域ケアにおけるICT活用とリテラシー		
記入教員氏名			
講師氏名			
配当年次		時間数（講座の時間数）	14

【シラバス情報】

授業概要	地域包括ケアを推進する上で情報技術の活用が推奨されている。その効果を適切に享受するために必要なICT知識と情報倫理について理解する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報セキュリティの基本的な重要事項について説明できる ・ ICTのヘルスケアへの活用方法について具体例を挙げることができる ・ 医療倫理的側面を理解した上で、情報を活用する方法について概要を説明できる ・ with コロナにおけるリハビリテーション専門職の役割について説明できる ・ 在宅ケアにおけるICT活用方法と社会資源の活用方法について具体例を説明できる

授業内容（授業計画）	<ul style="list-style-type: none"> ・ セキュリティの基本（e-learning 5時間） 講師：宮本 貴朗（大阪公立大学大学院 情報学研究科） ・ ICTのヘルスケアへの活用（e-learning 3時間） 講師：菅野 正嗣（大阪公立大学大学院 情報学研究科） ・ 医療倫理と情報活用（e-learning 3時間） 講師：紀平 知樹（兵庫県立大学 看護学部） ・ with コロナにおけるリハ職の役割（e-learning 1時間） 講師：北風 晴司（前:日本電気株式会社 医療ソリューション事業部, 現:エヌウインド） ・ 在宅ケアにおけるICTと社会資源の活用（スクーリング 2時間） 講師：大瀧 江美子（大阪市立総合医療センター）
------------	--

成績評価方法	成績は到達目標の達成度で評価します。 評価方法はレポートとし、到達目標の60%の習得度をもって合格の最低基準とします。
履修上の注意	計画的に視聴してください。
教科書	指定しない。
参考文献	適宜、授業動画内で紹介します。
オフィスアワー	Moodleのフォーラムを活用してください。
教員への連絡方法（メールアドレス等）	「地域リハビリテーション学コース」事務局 gr-reha-cbr@omu.ac.jp
その他	

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	
授業科目名（講座名）	組織マネジメント		
記入教員氏名			
講師氏名			
開講年度・学期		曜日・時限	
授業形態			
科目分類			
配当年次		時間数（講座の時間数）	13

【シラバス情報】

授業概要	<p>医療・介護を取り巻く環境と組織運営の基礎を踏まえ、リハビリテーション専門職に必要な「組織マネジメント（評価・目標設定・問題解決）」を学ぶ。</p> <p>さらに、データ活用とシステム思考、起業・地域課題解決、演習を通じたリーダーシップの実践を通して、現場で機能する組織づくりの視点を身につける。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・組織マネジメントの基礎の要点を説明できる。 ・医療情勢・財政・業界動向を整理し、組織運営への影響と今後の展望を概説できる。 ・組織内評価の考え方を理解し、現場での評価ポイントを例示できる。 ・目標設定と問題解決の手順を説明し、簡単な事例に適用できる。 ・データ活用と演習を通じて、リーダーシップおよび地域課題解決に向けた組織づくりの基本を実践できる。

授業内容（授業計画）	<ul style="list-style-type: none"> ・組織のマネジメント（e-learning 3時間） 講師：澤田 辰徳（東京工科大学 医療保健学部） ・起業の組織マネジメント（e-learning 3時間） 講師：谷 隆博（株式会社リニエL） ・システム思考で業務姿勢の振り返りを（e-learning 1時間） 講師：辻 洋（大阪府立大学名誉教授、元：大阪府立大学学長） ・プロジェクトを成功に導くためのリーダーシップ（スクーリング 4時間） 講師：広瀬 正（大阪公立大学） ・総合演習（スクーリング 2時間） 講師：樋口 由美・淵岡 聡・横井 賀津志・上田 将也（大阪公立大学大学院 リハビリテーション学研究科）
事前・事後学習の内容	

成績評価方法	<p>成績は到達目標の達成度で評価します。</p> <p>評価方法はレポートとし、到達目標の60%の習得度をもって合格の最低基準とします。</p>
履修上の注意	e-learningは計画的に視聴してください。
教科書	指定しない。
参考文献	適宜、授業動画内で紹介します。
オフィスアワー	随時、メールで事務局までご連絡ください。
教員への連絡方法（メールアドレス等）	「地域リハビリテーション学コース」事務局 gr-reha-cbr@omu.ac.jp
その他	

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	
授業科目名（講座名）	社会資源の活用・基礎		
記入教員氏名			
講師氏名			
開講年度・学期		曜日・時限	
授業形態			
科目分類			
配当年次		時間数（講座の時間数）	13

【シラバス情報】

授業概要	地域で患者や高齢者、障害者が活用しうる社会資源及び、関係機関・組織との連携に関する理論・基礎知識を学ぶ。
到達目標	地域福祉の理論を説明できる。 障害者支援の社会資源を説明できる。 在宅医療体制の整備とソーシャルアクションについて説明できる。 ソーシャルキャピタルを理解し、説明できる。 障害者スポーツと社会参加の意義について説明できる。

授業内容（授業計画）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の理論 講師：東根 ちよ（大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科） ・障害者支援の社会資源 講師：田垣 正晋（大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科） ・在宅医療体制の整備とソーシャルアクション 講師：山中 京子（コラボレーション実践研究所・大阪府立大学名誉教授） ・ソーシャルキャピタルの活用 講師：横井 賀津志（大阪公立大学大学院 リハビリテーション学研究科） ・障害者スポーツと社会参加 講師：片岡 正教（大阪公立大学大学院 リハビリテーション学研究科）
事前・事後学習の内容	

成績評価方法	成績は到達目標の達成度で評価します。 評価方法はレポートとし、到達目標の60%の習得度をもって合格の最低基準とします。
履修上の注意	
教科書	
参考文献	
オフィスアワー	随時、メールで事務局までご連絡ください。
教員への連絡方法（メールアドレス等）	「地域リハビリテーション学コース」事務局 gr-reha-cbr@omu.ac.jp
その他	

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	
授業科目名（講座名）	社会資源の活用・実践		
記入教員氏名			
講師氏名			
開講年度・学期		曜日・時限	
授業形態			
科目分類			
配当年次		時間数（講座の時間数）	13

【シラバス情報】

授業概要	地域で患者や高齢者、障害者が活用しうる社会資源の活用方法を知り、関係機関・組織との連携方法について学ぶ。
到達目標	行政機関・組織との連携について説明できる。 認知症の人を支える地域づくりについて説明できる。 地域で精神障害者を支える仕組みを説明できる。 自助・互助の枠組みづくりを説明し、提案できる。 自助グループ、ボランティアとの連携を説明し、提案できる。

授業内容（授業計画）	<ul style="list-style-type: none"> ・行政機関・組織との連携について 講師：逢坂 伸子（前:大東市保健医療部高齢介護室）安田 友幸（前:株式会社コーミン） ・認知症の人を支える地域づくり 講師：梅本 政隆（元:大牟田市保健福祉部健康福祉推進室） （現:株式会社地域創生Coデザイン研究所） ・地域で精神障害者を支えるために 講師：三家 英明（医療法人三家クリニック） ・自助・互助の枠組みづくり 講師：高畑 進一（京都橘大学 健康科学部・大阪府立大学名誉教授） ・自助グループ、ボランティアとの連携 講師：河合 晶子（藤田医科大学 七栗記念病院 津中央地域包括支援センター）
事前・事後学習の内容	講義テーマに関する事前学習（自身の臨床の振り返るを含む）と講義後のレポート

成績評価方法	成績は到達目標の達成度で評価します。 評価方法はレポートとし、到達目標の60%の習得度をもって合格の最低基準とします。
履修上の注意	
教科書	
参考文献	
オフィスアワー	随時、メールで事務局までご連絡ください。
教員への連絡方法（メールアドレス等）	「地域リハビリテーション学コース」事務局 gr-reha-cbr@omu.ac.jp
その他	

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	
授業科目名（講座名）	在宅医療・人生の最終段階における医療		
記入教員氏名			
講師氏名			
開講年度・学期		曜日・時限	
授業形態			
科目分類			
配当年次		時間数（講座の時間数）	12

【シラバス情報】

授業概要	在宅医療の現状と実践を踏まえ、生活の場で「生命・生活・尊厳」を支える支援の考え方や、多職種連携におけるリハビリテーション専門職の役割を学ぶ。 あわせて、人生の最終段階におけるエンドオブライフ・ケア、グリーフケアと苦痛緩和への関わりを理解し、支援のあり方を学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療の概念・現状と、生活の場での支援の要点を説明できる。 ・在宅医療における多職種連携の特徴を理解し、リハビリテーション職としての具体的な協働方法を例示できる。 ・在宅でのリハビリテーションの目的・介入の視点を整理して説明できる。 ・人生の最終段階におけるケアの基本を説明できる。

授業内容（授業計画）	<ul style="list-style-type: none"> ・ものがたりの街と地域医療（スクーリング 2時間） 講師：佐藤 伸彦（医療法人社団ナラティブホーム ものがたり診療所） ・在宅医療の実際（e-learning 3時間） 講師：白山 宏人（医療法人社団西日本平郁会 大阪北ホームケアクリニック） ・患者家族等へのケア – グリーフケア –（e-learning 2時間） 講師：岡本 双美子（三重大学大学院 医学系研究科） ・在宅ターミナルケアの実際（スクーリング 3時間） 講師：稲葉 典子（西宮協立訪問看護センター） ・総合演習（スクーリング 2時間） 講師：樋口 由美・淵岡 聡・横井 賀津志・上田 将也 （大阪公立大学大学院 リハビリテーション学研究科）
事前・事後学習の内容	

成績評価方法	成績は到達目標の達成度で評価します。 評価方法はレポートとし、到達目標の60%の習得度をもって合格の最低基準とします。
履修上の注意	e-learningは計画的に視聴してください。
教科書	指定しない。
参考文献	適宜、授業動画内で紹介します。
オフィスアワー	随時、メールで事務局までご連絡ください。
教員への連絡方法（メールアドレス等）	「地域リハビリテーション学コース」事務局 gr-reha-cbr@omu.ac.jp
その他	

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	
授業科目名（講座名）	機能的予後を見据えた地域支援とリハビリテーション戦略		
記入教員氏名			
講師氏名			
開講年度・学期		曜日・時限	
配当年次		時間数（講座の時間数）	14

【シラバス情報】

授業概要	在宅療養する難病患者、障害を有する児童・成人、要介護高齢者の機能的予後に関する知識を深め、適切な予後予測に基づくリハビリテーション学的対処方法について学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・精神科領域における機能的予後予測を理解した上で、作業療法的戦略を説明できる ・高齢者支援における機能的予後予測を理解した上で、介護予防戦略を説明できる ・難病患者支援における機能的予後予測を理解した上で、環境整備戦略を説明できる ・急性期病院の退院支援方法を理解し、在宅生活を支援するリハビリテーション学的対処方法を説明できる ・脳卒中患者の機能的予後予測を理解した上で、機能回復を目指す積極的戦略を説明できる ・介護予防戦略におけるヘルスリテラシーの役割を説明できる

授業内容（授業計画）	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスリテラシーと介護予防 講師：上村 一貴（大阪公立大学大学院 リハビリテーション学研究科） ・脳卒中後の機能回復支援（上肢） 講師：竹林 崇（大阪公立大学大学院 リハビリテーション学研究科） ・精神科領域における予後予測 講師：関 晋太郎（医療法人三家クリニック みつや訪問看護ステーション） ・理学療法学視点と介護予防 講師：吉良 健司（在宅りはびり研究所・株式会社らいさす） ・作業療法学視点と難病支援 講師：小林 貴代（森ノ宮医療大学名誉教授） ・急性期病院からの退院後支援 講師：上田 哲也（大阪公立大学大学院 リハビリテーション学研究科）
------------	--

成績評価方法	動画視聴の完了および提出されたレポートにより判定します。 レポートの評価は、到達目標の60%の習得度をもって合格の最低基準とします。
履修上の注意	講義はオンデマンド形式で配信されますが、計画的に学習を進め、レポート提出期限内に受講を完了してください。
教科書	
参考文献	必要に応じて、各講師がオンデマンド講義の中で、紹介しています。
オフィスアワー	随時、メールで事務局までご連絡ください。
教員への連絡方法（メールアドレス等）	「地域リハビリテーション学コース」事務局 gr-reha-cbr@omu.ac.jp
その他	

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	
授業科目名（講座名）	機能的予後を見据えた地域支援とリハビリテーション戦略		
記入教員氏名			
講師氏名			
開講年度・学期		曜日・時限	
配当年次		時間数（講座の時間数）	13

【シラバス情報】

授業概要	多様化する訪問リハビリテーションを行う上での医学的、対人的、労働環境的リスクを知り、実践的事例を通じてそれらの対処方法について学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 在宅看護学における患者・家族への関わり方について、基礎的な概要を説明できる 訪問リハビリを実践する上での医学的リスクマネジメントを説明できる 訪問リハビリを実践する上での家族や利用者（高齢者、障害者等）を含む対人的リスクマネジメントを説明できる 急性期病院の退院支援方法を理解し、在宅生活を支援するリハビリテーション学的対処方法を説明できる 脳卒中患者の機能的予後予測を理解した上で、機能回復を目指す積極的戦略を説明できる 介護予防戦略におけるヘルスリテラシーの役割を説明できる

授業内容（授業計画）	<ul style="list-style-type: none"> 在宅看護学における患者・家族への関わり方（基礎） 講師：松下 由美子（甲南女子大学 看護学研究科） 医学的リスクマネジメント 講師：井上 聖一（リハビリ訪問看護ステーションファミリア） 対人関連のリスクマネジメント 講師：藤堂 恵美子（医療法人マックスシール 巽病院訪問看護ステーション） 訪問リハビリテーションの実践事例（身体障害領域） 講師：関本 充史（株式会社リニエL） 訪問リハビリテーションの実践事例（精神障害領域） 講師：関 晋太郎（医療法人三家クリニック みつや訪問看護ステーション）
------------	---

成績評価方法	動画視聴の完了および提出されたレポートにより判定します。 レポートの評価は、到達目標の60%の習得度をもって合格の最低基準とします。
履修上の注意	講義はオンデマンド形式で配信されますが、計画的に学習を進め、レポート提出期限内に受講を完了してください。
教科書	
参考文献	必要に応じて、各講師がオンデマンド講義の中で、紹介しています。
オフィスアワー	随時、メールで事務局までご連絡ください。
教員への連絡方法（メールアドレス等）	「地域リハビリテーション学コース」事務局 gr-reha-cbr@omu.ac.jp
その他	

【科目情報】

授業コード		科目ナンバリング	
授業科目名（講座名）	機能的予後を見据えた地域支援とリハビリテーション戦略		
記入教員氏名			
講師氏名			
開講年度・学期		曜日・時限	
配当年次		時間数（講座の時間数）	15

【シラバス情報】

授業概要	生活期における疾病の病態及び、在宅療養の実際を解説し、高齢者・難病患者・障害を有する児・者の生活支援を促進するリハビリテーション専門職の関わり方について学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・若年性認知症患者・家族への関わり方について説明できる ・中重度認知症の病態及び適切な対応の方法を説明できる ・高齢期における運動機能の加齢変化を理解し、それら機能変化に対処可能な事柄について説明できる ・高齢期の栄養状態・摂取量／質に関する加齢変化の概要を説明できる ・発達障害の概要並びに臨床像を理解し、発達障害を有する子どもへの適切な対応について説明できる ・脳性麻痺の病態及び経年的な二次的機能障害について理解し、脳性麻痺児・者への効果的な対処方法を説明できる

授業内容（授業計画）	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の理解と対応（在宅、若年） 講師：沖田 裕子（NPO法人認知症の人とみんなのサポートセンター） ・認知症の理解と対応（施設、高齢者） 講師：田中 寛之（大阪公立大学大学院 リハビリテーション学研究科） ・運動機能の加齢変化 講師：樋口 由美（大阪公立大学大学院 リハビリテーション学研究科） 岩田 晃（大阪公立大学大学院 リハビリテーション学研究科） ・栄養状態、摂取の加齢変化 講師：大関 知子（大阪公立大学大学院 生活科学研究科） ・発達障害のある子どもの理解、対応 講師：立山 清美（大阪公立大学大学院 リハビリテーション学研究科） 中岡 和代（大阪公立大学大学院 リハビリテーション学研究科） ・脳性麻痺児・者の理解、対応 講師：米津 亮（東京家政大学 健康科学部）
------------	--

成績評価方法	動画視聴の完了および提出されたレポートにより判定します。 レポートの評価は、到達目標の60%の習得度をもって合格の最低基準とします。
履修上の注意	講義はオンデマンド形式で配信されますが、計画的に学習を進め、レポート提出期限内に受講を完了してください。
教科書	
参考文献	必要に応じて、各講師がオンデマンド講義の中で、紹介しています。
オフィスアワー	随時、メールで事務局までご連絡ください。
教員への連絡方法（メールアドレス等）	「地域リハビリテーション学コース」事務局 gr-reha-cbr@omu.ac.jp
その他	